

浪江町の復興における帰還困難区域の当面する環境回復の計画

浪江町の復興において、面積の8割をしめる帰還困難区域の環境回復は大きな課題である。浪江町の帰還困難区域におけるモデル除染の結果は、線量の高いところほどむしろ効果的な線量低下がえられた。帰還困難区域の環境回復における当面する課題として次の4課題に取り組む。同時に、長期的課題についても検討を開始する。

(1) 住居の除染

浪江町の帰還困難区域のモデル除染において、住宅とその周辺の除染により効果的な線量低下が認められることが明らかになった。それをも踏まえて住民の希望する住居および関連の建物およびその周辺の除染を行うこととする。

(2) 主要道路とその周辺の除染

住民が環境回復に取り組むには浪江町各地区へのアクセスが可能であることが必須である。114号、34号、35号、399号線、459号線をはじめとする地域の基幹的な道路の通行を可能とするため、道路とその周辺の除染を行う。

(3) 大柿ダムと周辺地区の対応

大柿ダムは、浪江町、南相馬市小高地区、双葉町の基幹的農業用水である。大柿ダムから取水される水の放射能検査を24時間持続的に行う。大柿ダム湖底の高度汚染土壌について低圧浚渫とセシウム回収型焼却炉によるリサイクルを担う施設を設置し、環境回復の拠点とする。同時にセシウム回収型焼却炉の電源を担うバイオマス発電所の計画を検討する。

(4) 高瀬川溪谷の対応

高瀬川ぞいの253号線を暫定的に除染し通行の安全性を確保し、その汚染状況、道路の安全性を調査し、高瀬川溪谷の環境回復の基礎となる長期的な復興道路計画を策定する。